

平成 2 2 年度研究開発成果概要書
「革新的な三次元映像技術による
超臨場感コミュニケーション技術の研究開発」

(1) 研究開発の目的

4K2K とその先にある 8K4K などの高解像度撮像システムにとって避けることのできない感度限界の壁を長時間露光画像の時空間分解処理 (DRE 方式 ; Dual Resolution and Exposure) により打破し、ポータビリティ性に優れた 2/3 inch 4K2K カメラの実現を目指す。

(2) 研究開発期間

平成 2 1 年度から平成 2 3 年度 (3 年間)

(3) 委託先企業

パナソニック株式会社

(4) 研究開発予算 (百万円)

平成 2 1 年度	5 9
平成 2 2 年度	5 6
平成 2 3 年度	5 3

(5) 研究開発課題と担当

課題イ : 三次元映像通信・放送のための中核的要素技術
(パナソニック株式会社単独)

(6) これまで得られた研究開発成果

		(全体) 件	(当該年度) 件
特許出願	国内出願	3	2
	外国出願	0	0
外部発表	研究論文	3	3
	報道発表	0	0
	その他研究発表	3	2
	展示会	1	0
	標準化提案	0	0

具体的な成果

- (1) 実デバイス（2/3inch 4K2K 撮像素子）と FPGA による時空間分解処理部（21年度成果）との接続による、リアルタイム処理（24fps）を実現
- (2) 従来の 4K2K クラス撮像素子との性能比較により、3.5dB の高感度化を実現

(7) 研究開発イメージ図

